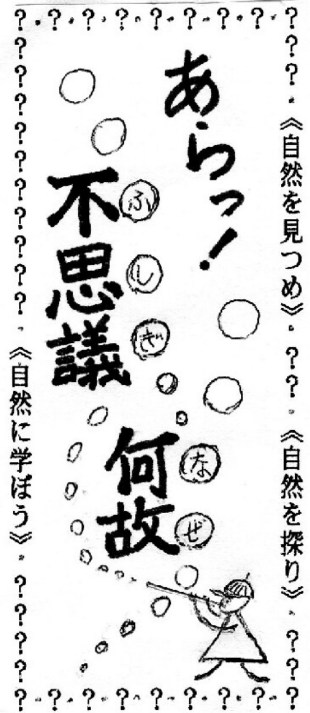


自然談議・科学談議



NO. 43 (通算43)

絵・文・題字
渋谷 一夫

ツクシ誰の子……?

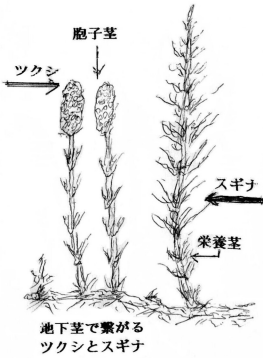
「我が家の畑の一角に、毎年必ず数百本数千本のツクシが出てくる。それも耕すでもない。世話をするでもない。肥料をやるわけでもない。自然のままなのに……。昔は食材としてのツクシ摘みをよくやったようだ。今回は、地下茎の凄さに焦点を絞って、その正体を探ってみたい。」

答えは童謡にある。
ツクシ誰の子 スギナの子……だ。

そう言えば、ツクシの周りにはスギナが一杯だ。掘り出すと、地下で繋がっている。納得。

地下茎の魔力

地下茎には節が沢山あり、そこから芽が出てくる。地上に出てくる緑色の茎がスギナで、栄養茎だ。また、別の節から出てくる筆型の茎が、胞子茎でツクシだ。花ではない。先端に「胞子のう」があり、ここから胞子をまき散らすのだ。驚異的な繁殖力だ。その根源は地下茎にある。



地下の天然記念物

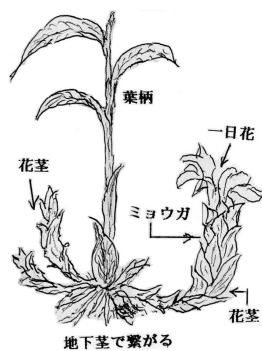
地下茎に視点を移すと外にもあるあるある。我が屋敷の一角に、毎年必ず芽を出す野菜がある。フキとミョウガだ。

栽培しているわけではない。肥料を与えているわけでもない。耕して世話しているわけでもない。ごく自然のままなのだ。だが、同じ場所と同じように毎年出てくる。

ある時、そのミョウガの上全般に、50cm位の盛り土をしてしまった。だが暫くすると、その盛り土を突き破って地上に顔を出し、元通りにしてしまっただのだ。この自然力には驚いた。

そして、早春にはフキノトウ、4月になるとフキの葉柄、7月にはミョウガの花茎と、毎年香り苦みの旬の味覚を提供してくれている。それも100年以上、毎年続いているのだ。

だが、この自然の凄さに誰も気付いてくれないとフキもミョウガも嘆いているかもしれない。だから私は「地下の天然記念物」と讃えている。



地下茎の謎を説く

フキは多年草だ。太い地下茎から、葉と花茎を別々に出す。葉が出る前の早春には、りん片状の苞葉に包まれた花茎が地上に顔を出す。

フキノトウだ。独特の香り苦みで早春を感じさせる。4月になると葉も出てくる。葉柄は太くて長い。若い葉柄は香辛料として珍重されている。

もう一つの天然野菜はミョウガだ。地下茎は細い円柱状で、地中を横に走っている。これも地下茎には節が沢山ある。7月頃になると、1mもある地上茎とは別に、長楕円形の花茎が、地上に芽を出す。この花茎は多数の苞葉に包まれ、その間から淡黄色の花が開く。その花は一日でしぼんでしまう。一日花だ。

この特有な香りのするミョウガは、日本独特の香辛料野菜なのだ。視点を變えると、今まで見えなかつたものが見えてくるものである。

